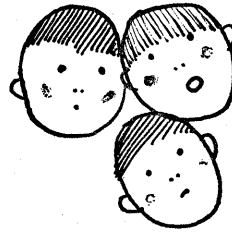


私のまわりのこどもたち



小畑 敏子

朝七時半に登園するこども、夕方六時までいるこども、多くのこどもは大変長い時間、集団の中で過します。朝早いこどもの中には、門の前まで食物をた

べながら登園することもあります。帰りは園の近くの自動販売機でジュースを買ってもらい飲んでいるこどもの姿もみられます。園では午前中のおやつ、昼食、午後のおやつなど、家庭の食事の状況を十分

考慮し給食を実施していますが、個々の家庭の状況が異なるため、こどもたちにとっての食事における現実には厳しいようです。

Yちゃんの両親は自営業で夜おそくまで仕事をしているためどうしてもYちゃんの就寝時間が遅くなるようです。そのため起床時間が遅く登園も遅くなります。お母さんと話し合い、園の生活リズムに合

わせていただくようになりました。しかし、その後、園の近くに散歩に行つての帰り道、Yちゃんの元気がなくなつてしまいました。身体具合が悪いのではないかと心配しましたが、Yちゃんはお腹がすいて元気がでないことがわかりました。

家庭における食事についてのアンケートの答えでは朝食をしてこないこどもは殆どみられません、こどもの活動などを通して現実にはしてこないこどもがいることがわかりました。

5ヶ月で入園したEちゃんは母乳で育てられていました。保育園に入所するとき、お母さんは保育園に母乳を持って来るのでぜひ飲ませて欲しいとお話でした。母乳をのませることがこどもにとって大変良い、ということはわかるのですが、衛生上、管理上などの点でご希望にそう事は出来ませんでした。Eちゃんは標準以上の体格に成長しています。

Eちゃんのお母さんは一生懸命Eちゃんのことを

考えていますが、少し気にかかることがあります。お母さんの耳にウォークマンがつけられEちゃんは乳母車に乗って登園したのです。お母さんとのふれ合いが大切な乳児期、登園の途上、降園のときなど母子一対一のふれ合いの場としてとてもよい場だと思いますが、割合活用されていない場合があります。

Uちゃんは4ヶ月で入園しました。園では一番小さい年令でした。保母としての安定した関係を重要と考え保育をすすめました。お母さんも公開保育のときなどは出席して下さり、Uちゃんと保母との関係に大変満足し喜んでくださいました。一歳、二歳時期、園とお母さんとの連携も十分出来ていると思つていました。しかし三歳になる頃、本当に連携が出来ているのだろうかとの疑問をもつようになりました。

Uちゃんが三歳近くになつても、食事を保母に口

まで運んでもらいたがる。保母のひざにいつものりたがる、それらの要求がとおらないと機嫌が悪く泣きだすことが多いなど……。Uちゃんが二歳頃までは甘えんぼうのUちゃんという事で見守り、Uちゃんの要求を受けとめながら保育をすすめていました。一人の保母が数人のこどもをみる場合、手のかかるこどもが独占していることがあります。Uちゃんもそのひとりでした。お母さんと話し合ってみました。生活習慣づけは園でしているから家庭ではない。家庭ではスキップが大切なので食事の時はたべさせていますということでした。

お母さんたちの中には自分のこどもに十分手をかけてくれる保母、こどもの要求を受け入れてくれる保母を望んでいるようです。

手のかからないこども、月令の高いこどもはクラスの中に機嫌が悪かったり、泣いたりすることもがいてと担任に自分の要求をだしたり甘えたりする行為が少なく、園長などが保育室にいくと絵本をもつ

て来てひざの上ののるなどの行為がみられます。クラスの中に機嫌が悪くよくあそべないこども、よく泣くこどもがいてとクラス全体のこどもに影響し、クラス全体のこどもが十分あそべなくなります。

このように十分あそべないと家庭に帰ってからよい生活はできません。

年令が小さければ小さい程、こういう状況がみられます。このような状況をくりかえしていくことは乳幼児期における人格形成の上からも影響が強いのではないかと思います。保育園のおともだちとあそぶの大好き、でもお家のお父さん、お母さんとできるだけ一緒にいたい、こんなこどもたちの気持ちを大切にしたいと思っています。

(港区立本村保育園)